

水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメが多発

高温経過で加害が活発化の恐れ！

基幹防除を適切に実施しよう！

アカヒゲホソミドリカスミカメは、斑点米発生の主要原因となるカメムシです。主に水稻の出穂以降に畦畔や雑草地などから第2回成虫が水田内に侵入します。その後、水田内では第2回成虫や第3回幼虫・成虫が籾を吸汁加害して斑点米を発生させます。

本年は、第1回成虫の発生が、予察灯で長沼町、比布町及び北斗市で平年より多く、予察田畦畔すくい取りでは比布町、北斗市において平年より多く推移しており、第2回成虫以降の発生も多くなるものと推測されます。

水稻の生育は平年並に推移していますが、7月の高温経過により平年よりやや早く出穂期に到達する地域も現れると推測されます。

また、札幌管区气象台発表の7月11日付け1か月予報によると、7月中旬以降の気温は全道的に高い傾向で、降水量はほぼ平年並と予報されています。今後、水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧されます。

以上のことから、基幹防除を適期に実施することは、例年に増して重要であると考えられます。また、基幹防除後も水田内のすくい取りやフェロモントラップによるモニタリングを励行し、適切な茎葉散布による追加防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯における成虫の誘殺数は、長沼町、比布町及び北斗市で平年より多く推移している（表1）。
- (2) 予察田の畦畔すくい取りによる成虫の捕獲数は、比布町及び北斗市で平年より多く、長沼町で平年よりやや少なく推移している（表2）。
- (3) 予察田内に設置したフェロモントラップでいずれの地点においても、籾を加害する第2回成虫の水田への侵入が確認されている。
- (4) 一般田における6月6半旬の巡回調査では、畦畔すくい取りにおいて全72地点中、空知、石狩、胆振、上川地方の計8地点で捕獲が認められている。
- (5) 7月11日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、7月中旬以降の気温は全道的に高い傾向で、降水量はほぼ平年並と予報されている。
- (6) そのため、今後水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧される。

4. 防除対策

- (1) 薬剤散布は出穂期とその7日後の2回を基幹防除として必ず実施する。ただし、ジノテフラン液剤またはエチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用する場合、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布に省略できる。水面施用剤を使用する場合は、出穂期から7日後の1回施用で出穂後2週目まで残効が認められる。

- (2) 基幹防除に引き続き、以下のとおり発生モニタリングを行い、追加防除の要否を判断する。
- ① 基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「ゆめぴりか」、「きらら397」では2頭、「ななつぼし」、「ほしのゆめ」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。その後も、上記水準を下回るまで、7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。
 - ② 上記基準は、出穂7日後以降7日間ごとのフェロモントラップによる合計捕獲虫数（同一区域内に設置した複数トラップによる平均捕獲頭数）では、「きらら397」は2.2頭、「ほしのゆめ」は1.2頭に相当する。
 - ③ ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用し、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布とした場合も、散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行い、上記に準じて追加防除を実施する。
 - ④ 基幹防除に水面施用を実施した場合には、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。
- (3) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯による成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.7	0	2.4	0	0.9
2半旬	0	2.7	15	1.8	3	1.8
3半旬	13	6.5	19	2.5	30	3.2
4半旬	17	10.2	2	1.4	10	1.5
5半旬	13	5.1	1	1.1	10	1.6
6半旬	9	9.5	5	3.0	8	6.1
7月1半旬	20	9.2	0	1.4	59	28.1
2半旬	321	55.8	6	3.5	366	58.9
平年数	10		10		10	

表2 畦畔すくい取りによる成虫捕獲頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	4.5	0	0.0	0	0.3
2半旬	2.5	7.5	50.0	3.3	0	1.5
3半旬	1.3	22.8	8.3	4.0	0	0.8
4半旬	5.0	8.6	0	4.5	15.0	2.5
5半旬	5.0	1.7	0	1.7	2.5	0.5
6半旬	3.8	4.3	0	0.5	0	1.5
7月1半旬	0	7.4	0	0.0	0	2.0
2半旬	6.3	6.8	2.5	0.3	0	0.5
平年数	10		10		10	

付記

北海道地方 1か月予報
(7月13日から8月12日までの天候見通し)

令和6年7月11日
札幌管区气象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、北海道日本海側・太平洋側で高い確率が80%、オホーツク海側で高い確率が70%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が80%です。2週目は、日本海側・太平洋側で高い確率が70%、オホーツク海側で高い確率が60%です。3～4週目は、高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

- 【気温】 北海道地方日本海側
- 北海道地方オホーツク海側
- 北海道地方太平洋側
- 【降水量】 北海道地方
- 【日照時間】北海道地方日本海側
- 北海道地方オホーツク海側
- 北海道地方太平洋側

10	10	80	
10	20	70	
10	10	80	
40		30	30
30	30	40	
30	30	40	
30	40	30	

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

- 1週目 北海道地方
- 2週目 北海道地方日本海側
- 北海道地方オホーツク海側
- 北海道地方太平洋側
- 3～4週目 北海道地方

10	10	80	
10	20	70	
10	30	60	
10	20	70	
20	30	50	

■低い □平年並 ■高い